

平成28年度

宮崎リハビリテーション学院

第1回 入学者選抜試験 国語 その一

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

だいたい、文化と言えはすぐ文学や絵画彫刻を頭に思い浮かべ、植物などは、(ア)泥臭いとばかり顧みないのが間違っている。野生植物を食用とし、あるいは觀賞用として、人間の日常生活の中に組み込むまでには、並々ならぬ(a)えいちが働かされてきたのだ。

(イ)菊も優れた文化財である点、絵画や彫刻となんら異なるところはない。菊人形が菊細工の名の下に発生したその少し前の(b)じきから、菊の栽培が普及していたのであり菊人形が今日まで(c)りゅうせいを続けている背景には、菊の栽培技術と品種改良に払われた先人の努力があったことを明記すべきであろう。

それにしても、近代遺伝学とはまったく無関係に、江戸中期の日本において数々の品種改良が成し遂げられたのは、いったいどういうことなのであろうか。江戸三百年の日本社会は、国を閉ざされていながら、国内生産力は高く、庶民のエネルギーとレジャーは外に発散されず内に向けられた。そのはけ(A)の一つとして植物栽培が取り上げられ、細心にして丹念な品種改良が行われたわけである。しかもこの場合、觀賞が中心になり実用は縦となっている。菊作りに精魂を(B)けるのは、食用や薬用に役立てんがためではなく、大輪の花を咲かせ懸崖の姿を眺めて愉悦に浸ったのである。

そこには我々は、平安時代以来の「風流」の伝統的精神をみることができる。菊人形はまさに日本の風流の終点に位置するものであろう。そして、そもそも風流の精神とは、現世において宗教によらずして(ウ)現実的(d)りえきからいかに離れ得るかを試す(e)ちようせん姿勢であり、日本人独特の宗教離れの生き方の一つの典型を示すものではなからうか。

(林屋・梅棹・多田・加藤 「菊人形」)

(各問の字數指定はすべて句読点を含む。)

問1 棒線部(a)〜(e)までのひらがなを、それぞれ、漢字になおしなさい。

問2 傍線部(ア)「泥臭い」の表現は、この場合二つの意味を持つと考えられる

二つの意味を含めた形で「泥臭い」の意味を二十五字以内で示しなさい。

問3 傍線部(イ)「菊も優れた文化財である」理由を、本文を引用して、箇条書に三つ述べなさい。それぞれ十五以内とする。

問4 空欄 (A)・(B)に適切な漢字一字を書き入れなさい。

問5 傍線部(ウ)「現実的りえき」から「離れ」とは、この場合、どのようなことか。三十字以内で説明しなさい。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

三人はまたトロッコへ乗った。車は(A)海を右にしながら、(a)ぞうきの枝の下を走って行った。しかし良平はさっきのように面白い気持ちにはなれなかった。「もう帰ってくればよい」彼はそう念じてみた。が、行く所まで行きつかなければ、トロッコも彼らも帰れないことは、もちろん彼にはわかり切っていた。

その次に車の止まったのは、切り崩した山を背負っている。わら屋根の茶店の前だった。二人の土工はその店へはいると、乳香子をおぶった上さんを相手に、ゆうゆうと茶など飲み始めた。少時の後茶店を出て来なしに、巻煙草を耳にはさんだ男は、良平に新聞紙に包んだ駄菓子くれた。(ア)良平は冷淡に「ありがとう」と言った。が、すぐに冷淡にしては、相手にすまないと思ひ直した。彼はその冷淡さをとり繕うように、包み菓子の一つを口に入れた。菓子には新聞紙にあつたらしい、石油の臭いがしみついていた。

三人はトロッコを押しながらゆるい(b)けいしやを登っていった。良平は車に手をかけていても、心はほかのことを考えていた。その坂を向こうへ下り切ると、また同じような茶店があった。土工たちがその中へ入った後、良平はトロッコに腰をかけながら、帰ることばかり気にしていた。茶店の前には花の咲いた梅に、西日の光が消えかかっている。(1)「……………」彼はそう考えると、ぼんやり腰かけてもいられなかった。トロッコの車輪をけつてみたり、一人では動かないのを(c)しろうちしながら押ししてみたり——そんなことに気持ち紛らせていた。

ところが土工たちは出てくると車の上の枕木に手をかけながら、(d)むぞうきに彼にこう言った。(2)「われは帰んな。おれたちは今日は向こう泊りだから。」良平は一瞬間あつげにとられた。もうかれこれ暗くなること、去年の暮れ母と岩村まで来たが、今日の道はその三、四倍あること、それを今からたった一人、歩いて帰らなければならぬこと、——そういうことが一時にわかつたのである。良平はほとんど泣きそうになった。が、泣いても仕方がないと思った。泣いてい

る場合ではないとも思った。彼は若い二人の土工に取って付けたようなお辞儀をすると、どんどん (e) せんろ 伝いに走り出した。

良平はしばらく無我夢中に線路のそばを走りだした。そのうちに懐の菓子包みが、邪魔になることに気がついたから、それを道ばたへほうり出すついでに板草履もそこに脱ぎ捨ててしまった。すると薄い足袋の裏へじかに小石食い込んだが、足だけははるかに軽くなった。彼は (B) 左に海を感じながら急な坂道を駆け登った。ときどき涙がこみ上げてくると自然に顔がゆがんでくる。——それは無理に我慢しても、鼻だけは絶えずくうくう鳴った。

竹やぶのそばを駆け抜けると、夕焼けのした日金山の空ももう火照りが消えかかっていた。すると今度は着物までも、汗のぬれ通ったのが気になったから、やはり必死で駆け続けたなり、羽織を道ばたへ脱いで捨てた。

みかん畑へ来るころには、あたりは暗くなる一方だった。「命さえ助かれば」——良平は、そう思いながら、すべってもつまずいても走って行った。

(芥川龍之介 「トロツコ」から)

問1 傍線部 (a) (e) までのひらがなを漢字になおしなさい。

問2 二重傍線部 (ア) 「良平は冷淡にありがとうと言った」どうして「冷淡」に言ったのか。十五字以内で説明しなさい。

問3 傍線部 1 「……」の部分を通切なことを十字以内に書き入れなさい。

問4 傍線部 2 「われはもう帰んな。おれたちは今日は向こう泊りだから。」と土工たちに言われてからの良平の心理の動きを順序に、考察して、それぞれどんな意味を表しているか。適切なものをあとから選んで、その記号を書きなさい。

- ① 良平は一瞬間あつげにとられた。 ② 良平はほとんど泣きそうになった。
③ 泣いても仕方がないとも思った。 ④ 泣いている場合ではないともおもった。

(ア) 事態の判断 (イ) あきらめ (ウ) すなおな感情 (エ) 反抗

(オ) 判断にもとづく決意 (カ) 直覚的なおどろき

問5 この物語の季節はいつごろか。季節を書き、それがわかる語句を本文から六字書き抜きなさい。

問6 傍線部 (B) 「左に海を感じながら」とはどういうことか。次にあげた中から最適なものを選んで、その記号を書きなさい。

- (ア) 海の美しさを感動しながら。 (イ) 海の壮大な景色に圧倒されながら。
(ウ) 海と山のすがたの対照を感じながら。 (エ) 海を見るゆとりがなく少し感じ

その四

ながら。

問7 傍線部(A)と(B)の良平の行動の違いを「右」・「左」に留意して、十五字以内に説明しなさい。

(三) 次の文中に不適当な表現がある。「不適当」な部分を

抜き出し改めなさい。

- 1 そういう人は、相当いないと思います。
- 2 上や下にお騒ぎになる。
- 3 道草を食べてちやだめよ
- 4 彼は一つ返事で引き受けた。
- 5 身を惜しまずよく働いている。

(四) 短歌の情景とあなたの鑑賞を簡潔に書きなさい。

ちっとして寝ていらつしやいと

子供にでもいふごとくに

医者はいふ日かな

石川啄木

下書き用

平成28年度

宮崎リハビリテーション学院

第2回 入学者選抜試験・国語 その一

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本では、人の目は伝統的に、縦書きの書物や絵巻物の形式によって、右から左へという動きに(ア)ならされて来た。「A」の版画「東海道五十三次」の画面構成を見てみよう。東海道を海側から写すにしろ山側からにしろ、右手前から左奥への(イ)びようしやが多い。それは京へ「B」、あるいは江戸へ「C」(1)旅人の目から見た風景としての統一性ではなく、名の宿場の名所的な風物を、右から左へと「D」な目でとらえているからだ。「一段落 展覧会などでは、一枚一枚の絵を、起点の日本橋から壁面に向かって左方向に見て行くことになるうが、先ごろアメリカの美術館に展示された「五十三次」は観客が壁面に向かって欧米的に左から右へ移動しながら見ていた。つまり、京から東海道を下る方向に見ていくことになるのはいいとして、当然ながら、彼らが手にしているカタログの図版は欧米の本仕立てだから、日本橋から順番に右へ五十三次が印刷されていた。

美術館が(2)鑑賞の正しい(ウ)じゅんろを指示すべきだと思つたが、考えて見れば、たとえ(エ)かんきやくの足を壁面に向かって右から左へ運ばせてみても、それは彼らの自然の目の動きに逆らうことになるのだから、一枚一枚の絵を見る目は、足とは逆の方向に向かってしまう。同じ会場に絵巻も数点展示されていたが、ほとんどのアメリカ人が左から、つまり絵巻の終わりのほうから見ていて、それでは絵の意味が理解できないはずだが、それが彼らの視覚(絵画)の言語では正しい構文なのだった。

しかし、このような見方を、(3)私たち日本人も今や他人事と言つていられない。戦後の日本がそれまでは右から左へだった横書きを欧米化してから、いや、すでに明治の(オ)ぶんめいかい以来、日本人の目は欧米文化の影響によって、統一のある動き方をしなくなった。競馬がいい例だが、馬場によって、天皇賞レースは右回り、日本ダービーは左回りなどというふうに統一性がない。

(熊倉千之 「日本人の感性」)

問1 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(オ)のひらがなを漢字になおしなさい。

問2 本文中の空欄「A」に入るべき「東海道五十三次」の作者を次にあげた中から、選んで、作者名を書きなさい。

(ア) 世阿弥・(イ) 十返舎一九 (ウ) 歌川広重 (エ) 松尾芭蕉 (オ) 井原西鶴
 (各問の字數指定は、すべて句読点を含む)

問3 本文中の空欄「B」・「C」にそれぞれ適当なことばを次から選んで、それぞれ二字書きなさい。(ア) 上る (イ) 止る (ウ) 下る (エ) 座る

問4 本文中の空欄「D」に入る適当な漢字三字を、本文中の第一段落・「印の中」から抜き出して書きなさい。

問5 傍線部(1)「旅人の目から見た風景としての統一性」とはどういうことか、次にあげた中から、一つ選んで、その記号を書きなさい。

(ア) 旅で見るといい風景は海側からの風景(所・場所)であってそれを描くように決めておく。

(イ) 旅で描く風景(名所的な風物)の順番を山側からの風景にして描くように決めておくこと。

(ウ) 京に上る、江戸に下る、それぞれの場合に海側から描くか、山側から描くかを決めておくこと。

(エ) 旅で見るといい風景は、右手前から左奥に見、絵に描くようになっていくこと。

(オ) 旅の画の順番を、旅で見物したいいい風景(名所的風物)の順に決めておくこと。

問6 傍線部(2)「鑑賞の正しいじゅんろ」とは、ここではどうすることか。本文のことばを用いて、二十五字以内で書きなさい。

問7 傍線部(3)「私たち日本人も今や他人事と言ってられない。」のはなぜか。本文中から三十五字以内で抜き出して「……」から「」につづくように書きなさい。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は若い画家夫妻に(ア) すすめられて、五月のある晴れた午後、車でパリを北に向けて出発した。途中、パリ北郊の工場地帯や、新しい団地風のアパート群や、(A) 湯治場らしく(a) アンギヤンの町や、オートルートの左右に開ける広々とした青い野や、地平線を限る森を、ある種の(1) ほつとした気持ちで眺めた。石で(B) 堅固に構築した西欧の大都会に住んでいると、意識無意識にこの種に(イ) あつぱくかんに疲れていて郊外の広々とした耕地を見るようなとき、私は、(b) こうした安堵に似た気持ちを味わうのが常だったのである。

私たちは、一時間ほどでポントワーズに着き、そこからセーヌの支流に沿って、ポプラ並木の続く、丘の迫った別荘地を抜けて行った。川の向こう岸には時折古い工場が木立の間に見え、川には船がゆっくり動いていた。

オーペールはこうして続く同じ丘陵に立った小さな町で、(ウ)さいえんを前にした別荘や、赤屋根に緑の鎧戸を持つ家が道にそって並んでいた。花に(エ)がざられた小さな役場が、何か(2)童話の町の町役場といった感じで立っていたが、S夫妻がこれをもって佐伯祐三が描いたことがあると教えてくれた。私はそう言われて、あの少しゆがんだ佐伯祐三好みの形に描かれた哀愁とユーモアに(オ)みちたこの役場を私も前に見ていたことを思い出した。恐らく彼もゴッホ終焉の地を訪れて、この童話じみたユーモラスな四角い建物を見いだしたのである。そしてそれがあの灰色と深い暗褐色との彼の心象風景として描き出されていたにちがいない。

(注) 佐伯祐三(1898年〜1928年)・洋画家・パリの風物を描いた。

(辻邦生 「オーペールにて」)

問1 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)・(オ)のひらがなを漢字になおしなさい。

問2 傍線部(A)・(B)の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

問3 傍線部(a)・(b)に書入れることばを、次にあげた中から、それぞれ適当なことばを選んで、その記号を書きなさい。

(ア)時折(イ)にぎわった(ウ)寂しげな(エ)いつも(オ)優しい

問4 傍線部(1)「ほっとした」と同じ内容を表す漢字二字を、本文中から、抜き出し書きなさい。

問5 傍線部(2)「童話の町の町役場」とあるが、どのような点が「童話の」ような印象を与えたのか。具体的に描かれている 最も適当な部分を三箇所、それぞれ十五字以内で、体言(名詞)で終わる形で抜き出し書きなさい。

問6 現実の町役場と、佐伯祐三(画家)の得た心象風景とは、それぞれが特徴をもっている。両者の特徴が、最もよく表れている部分を選び、それぞれ十二字以内で抜き出し書きなさい。

(三) 次にあげた文中に不適当な表現がある。その部分を抜き書きして正しい表現になおしなさい。

(1) 太郎君は、先生のあい弟子だそうだ。

(2) 振り向き返って、にっこり笑った。

その四

(3) 部屋が厚いベールに、覆われている。

(4) 手みじかな問題を、取りあげて話し合う。

(5) 眉をしかめていた。

(四) 次の文の傍線部を漢字になおしなさい。

1 独立して成功をおさめる。 2 学院の課程をおさめる。

3 初出場で先制店をとる。 4 海で天草をとる。

5 生産の合理化をはかる。 6 駅までの時間をはかる。

(五) ことわざの意味とあなたの意見(感想)を書きなさい。

「 螢雪の功 」

下書き用

平成28年度

宮崎リハビリテーション学院

その一

第3回 入学者選抜者試験・国語

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

コミュニケーションの場における「聴く」ということは、相手の話に集中し、(1)自分を「無」にして、相手の意見・反応・結論・判断・感想などを一応受け入れることなのです。(2)水がいつばい入っているコップは、それ以上水を受けいれませんが、空っぽのコップは、いつでも水注ぎ入れることができるのです。まず自分を無にして相手の話を受け入れる。そのためには、自分のコップに水がいつばい入っているは駄目で、自分自身を空っぽのコップにすることです。

自分を空っぽのコップにするには、人間尊重の態度、そして努力と忍耐が要ります。(3)人のために自分のエネルギーをうんと「与える」用意のある人でなければできないものです。人の話を聞いているとき、私たちはどうしても自分の考え、またその問題についての反応・感情などを「おあずけ」にすることができないようです。話し手の話だけに集中し、自分の考えを、しばらく棚の上に「おあずけ」にすることは意外に難しいのです。

(斎藤美津子 「聴くということ」)

(各問の字数指定はすべて句読点を含む。)

問1 傍線部(1)「自分を「無」に」するとはどうすることか、十五字以内で書きなさい。

問2 傍線部(2)「水がいつばい入っているコップ」とはどういう状態か。本文中のことばを用いて「・・・状態」というかたちで二十五字以内で書きなさい。

問3 傍線部(3)「人のために自分のエネルギーをうんと「与える」とあるが、ここではどうすることか。本文中のことばを用いて、十五字以内で書きなさい。

問4 次にあげた中から、筆者の考え方に合うものを一つ選んで、その記号を書きなさい。

(ア) 人の話をきいているとき、自分の考えを持っていても黙っているのがよい。

(イ) 人の話をききながら、自分の頭にどんどん考えをため込むでおくとよい。

- (イ) 人の話に神経を集中すること自体は、そう難しいことは言えない。
- (ウ) 人の話をきいているときは、自分であれこれ考えないほうがよい。
- (エ) 人との話に反応してあげるのは、その相手を尊重してあげることである。

問5

本文中の「コミュニケーション」の本質的性格を、漢字五字以内で書きなさい。また、その例にあたるスポーツを一つ書きなさい。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

*筆者は病気で床に着いている、そこで、はえについて発見した。

もう冬だから、陽盛りにしか出て来ないが、布団にあごまで埋めた私の顔まで遊び場にする。

はえについて大発見をした。彼が頬にとまると、私は頬の肉を動かすか、首をちよつと振るかして、これを追い立てる。飛び立った彼は、すぐ同じ所に戻って来る。また追う。飛び立って、またとまる、これを三度繰り返すと、彼はあきらめて、もう同じ場所には来ないのだ。これはどんな場合でも同じだ。三度追われると、すっぱり気を変えてしまう、というのが、どのはえの癖でもあるらしい。

(1) 「おもしろいからやっつてらん」と私は家の者に言うのだが、「そうですね、おもしろいんですね。」と口先だけで言いながら、だれもそんな実験をやるうとはしない。忙しいのです、と無言の返答をしている。もちろん私は強いはしない。だが、忙しいというのはどういうことなんだ、それはそんなに重大なことなのか、と腹の中でつぶやくこともないのではない。

それからまた、私は、世にも珍しいことをやっつてのけたことがある。額で一匹のはえを捕まえた。

額にとまった一匹のはえ、そいつを追おうというはつきりした気持ちでもなく、私は眉をぐつとつり上げた。すると、急に私の額で騒ぎが起

った。私のその動作によって(2) 額にできたしわが、はえの足をしっかりと挟んでしまったのだ。はえは、何本か知らぬが、とにかく足で私の額につながれ、無駄に大きさに羽をぶんぶんいわせている。その狼狽のさまは手に取るごとくだ。

「おいだれか来てくれ」私は眉を思いきりつり上げ額にしわを寄せたとぼけた顔のまま大声を出した。中学一年生の長男が何事かと「だっていう顔でやって来た。」「おでこには、はえがいるだろう、取っておくれ。」「だって、取れませんよ、はえたときで、たたいちやいけないんでしょう?」「手で、すぐ取れるよ、逃げられないんだから。」「A」の長男の指先が、難なくはえを捕まえた。「どうだ、えらいだろう、おでこではえを捕まえるなんて、だれにだってできやしない

「B」の事件かもしれないぞ。」「へえ、驚いたな。」「と長男は、自分の額にしわを寄せ、片手でそこをなでている。「君なんかできるものか。」「私はにやにやしながら、片手にはえを大事そうにつまみ片手で額をなでている長男を見た。彼は十三、大柄で健康そのものだ。ろくにしわなんか寄りはない。(3) 私の額のしわはもう深い。そして、額ばかりではない。「なにになに? どうしたの?」「みんな次の部屋からやって来た。そして、長男の報告で、一斉にげらげら笑い出した。「わ、おもしろいな。」「と、七つの次女まで生意気に笑っている。みんなが気をそろえたように、それぞれの額をなでるのを見ていた私が「もういい、あっちへ行け。」と言った。少し(4) 不機嫌になってきたのだ。

(尾崎一雄 「虫のいろいろ」)

問1 「はえ」についての描写の表現技法を漢字三字で書きなさい。

問2 傍線部(1)では、「私」と「家の者」との考え方の違いが感じられる。

「私」と「家の者」とは、それぞれどのようなことが、たいせつであると考えているのか。それぞれ、三十字以内で書きなさい。

問3 本文中の空欄「A」・「B」に、それぞれ四字熟語を次にあげた中から選んで、漢字を書きなさい。

- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1 自信喪失 | 2 得意満面 | 3 疑心暗鬼 | 4 不平不満 |
| 5 自己嫌悪 | 6 自問自答 | 7 四苦八苦 | 8 空前絶後 |
| 9 一進一退 | 10 半信半疑 | | |

問4 傍線部(2)「額にできたしわが、はえの足をしっかりと挟んでしまったのだ。」という表現から、感じとれる私(作者)の気持ちとして、次にあげたなから、最適ものを選んで、その記号を書きなさい。

- (ア) はえを捕まえることができ、心からよるこんでいる。
 (イ) はえを捕まえたのが意外なことであり、驚いている。
 (ウ) はえを捕まえたたん、生理的に気味悪がっている。

その四

問5 傍線部(3)「私の額のしわはもう深い。そして額ばかりでない。」とある

が、このあと省略されていることは何か。十字以内で書きなさい。

問6 傍線部(4)「不機嫌になってきた」のは、なぜか。「私」の心情を考えて、

次にあげた中から最適なものを選び、その記号を書きなさい。

(ア) 病気の自分を気づかうことのない子どもたちの笑い声が
煩わしかったから。

(イ) 子どもたちの健康で若々しい生命にくらべると、自分の老いを
痛感したから。

(ウ) 自分の哲学的思索と生き方が、子どもたちにはわからなかった
から。

(エ) 子どもたちが気をそろえたように仲よく笑うのを見て、取り残
されたような孤独感を感じたから。

(三) 次の傍線部のひらがなを漢字になおしなさい。

(1) 結果よりかていを重視する。

(2) 兄は大学院の博士かていにいる。

(3) てきかくに判断する。

(4) てきかく者を採用する。

(5) 携帯電話のふきゆう。

(6) ふきゆうの名作。

(四) 次の文の空欄にあてはまる語として最適なものを、

(ア) (オ)の中から選んで、そのことばを書きなさい。

(1) 何を言ってもとりつく(1)がない。

(ア) 山 (イ) 暇 (ウ) 間 (エ) 島

(2) 袖振り合うも(2)の縁。

(ア) 他人 (イ) 多生 (ウ) 多少 (エ) 旅

(3) 校則違反を不問に(3)。

(ア) なす (イ) 推す (ウ) 付す (エ) 帰す

(4) あの方は、温厚(4)実なことで知られる人だ。

(ア) 篤 (イ) 切 (ウ) 確 (エ) 誠

(五) 次のことわざの意味と意見を簡潔に書きなさい。「塞翁が馬」